



メインで着ているラングリのパッドコロンビア（1着目はアメリカで火事に遭い、その後新たにオーダーした2着目）。肩には自作ショルダーカバーをあしらった（左）。同じ77年生まれの仲間で作ったスタッズパッチ（右）。

KTCの工具箱の下には自作キャビネット（右）。本棚にはリペアパーツを使用頻度の高いものを収納。床にある低床ジャッキはバンドを巻くための自作（左）。



簡単に作れそうだから作ってみたという自作メジソンバッグ。粗野な作りではあるが個性が感じられる。仲間にあげたりして、現在手元に残るのは3個のみ。



コールドの専用ストンプ。アメリカのサイクルショップにて50ドルで購入。一人暮らしの時は普段の生活でもヘビーローテーションだった。



数回の渡米で買い集めたブランケット。いろいろな思い出がある。キャンプ以外での使用頻度も高し。



アメリカのラングリで売っていた中古のシングルライダーズ。自分の身体にピッタリだったので購入を決めた。



トニラマのミクオーストリップ（アメリカで購入）。ドレスアップ時にも使われる。

左は火事の時に着て逃げたラングリのパッドコロンビア。右は同じ採寸で新たに作り直してもらった2着目。比べると背中が火で1/3ほど縮んでいるのがわかる。しかし表革だけは無傷だった。



見よ自費で作ったウェスタンブーツのソール補修装置。



アメリカで購入したウエスコのボス（右）。オーストラリアのブランドのリガブーツは奥様からの誕生日プレゼント（左）。



以前バイク雑誌（バイクズ）で見たことがあったので作ってみた「ハラセのジャッキ」。長さが難点もあったアジャスターボルトも、分割式に加工して驚くほどコンパクトになった。



テンガロンハット。アメリカのカウボーイショップで購入と言いたいが、地元でジャスコで購入（笑）。最近出番なし。



中古ジッポ。アメリカの質屋で購入。1個2ドルくらいだった。奥様ご褒美を期にタバコを止めたので最近はずして使用せず。

Photo & Text : Osamu Adachi



玄関奥にはパソコン机。パーツのネット購入も便利になった昨今、リビングよりもここにいることが多いかも……（左）。机の横になぜか小便器（右）。



水橋聖嗣（るいじ）。32歳。北海道札幌市在住。配管工。'69年式アーリーシヨール所有。2月には妻・桂子さんと間に待望の第一子が誕生する。

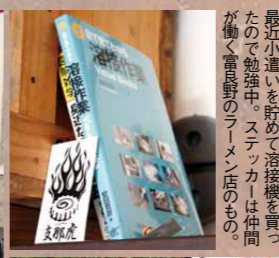
この主は高校卒業後、2年の自衛隊在籍時に貯めた資金を元にアメリカでボロのアーリーシヨールを買った。そのまま本工を放した。数年後再び資金を貯めて渡米した時、飯屋を営んでいた現地のモデルで火事に遭ってしまった。九死一生を得、その後も事後処理のために数度渡米、アメリカで出会った人々や仲間のおかげで心の傷も癒え、今では顔や手の火傷もすっかり完治している。

前置きが長くなったが、前述したようにハーレーに乗り出してから経験したことが、家族はもちろん友人や仲間への思いを深めていった。彼が以前ひとり住んでいた古い一軒家は、四六時中鉄と油と革の匂いが充満した「オレだけの城」だった。大半のハーレー乗りが、日々仕事や他のしがらみから隔離された趣味の領域である「理想のガレージ」を求めるのは無理のないことだろう。しかし彼は自分の普段の生活により密接し、大切な家族や仲間が行き場や空間の中にこそ大好きなハーレーとの居場所があると考え、結婚を機に建てたことになった新居で「理想の玄関」を作ることにしたのである。

バイクを整備するには若干狭いスペースではあるが、そこは玄関でありガレージではないので良しとしているとのこと。そしてそこには彼が頑としてこだわり、新妻の反対を押し切り設置した「玄関あけたら小便器」が……。主言わく「ブーツ履いたまま小便できるから超便利」らしい笑。



仕事用車庫の奥にある物置スペースに、小遣いを貯めて買った溶接機を設置。ヒマさえあればジリジリやっている。溶接用イスはなんとアーリーのフロントを使用。



最近小遣いを貯めて溶接機を買ったので勉強中。スニッカーは仲間が働く富田のラーメン店もの。



天井が高い玄関の壁面最上段には、アメリカから持ち帰ってきた当節ボバードカラムが飾られていた愛車アーリーの外装が飾られている。



ブーツのリペアは自ら行う。アメリカでオーダーして作ったホワイツバック用のシフトプロテクターは自作。



アメリカを走った時の写真。荒野の真ん中での故障も、持ち前の運の強さで乗り切った。

求めたものは「理想のガレージ」より「理想の玄関」。